



平成27年度自動車部品・機能・構造セミナーを 開催しました

(気仙沼高等技術専門学校)
(気仙沼地方振興事務所地方振興部)
(産業技術総合センター)

12月3日、気仙沼高等技術専門学校において自動車部品・機能・構造セミナーを開催しました。

このセミナーは、管内の企業の方にもものづくり産業の技術等の理解を深めていただくことを目的に震災前に開催していましたが、今回は震災後初の開催となりました。

当日は、鉄工会社や水産加工会社等から約40名の参加があり、トヨタ自動車東日本株式会社の藤原義行プロフェッショナルパートナーから「トヨタ自動車東日本における車づくり」と題した講演や車両を使った自動車部品やトヨタ生産方式の考え方の中核をなす「カイゼン」などについての説明が行われました。また、屋外では、エアバッグの展開実演も行われ、参加者は、自動車製造の工程や各行程における「カイゼン」のポイント、車両及び部品の構造に関する見識を深めました。



(講演の様子)



(車両を使った部品等の説明の様子)

塩エコ(eco)キャンペーン 2015

(気仙沼保健福祉事務所)

12月5日イオン気仙沼店にて気仙沼保健所、気仙沼管内栄養士会共催による塩エコ(eco)キャンペーンを開催しました。塩エコとは塩分摂取を控えること、つまりは減塩のことです。

キャンペーンではかつおだしを使用した0.8%塩分のみそ汁の試飲を行い、普段のみそ汁と比較して「濃い」「ちょうど良い」「薄い」と感じたかを投票していただきました。

また、食品中の食塩量を見て分かるよう展示したほか、ぬりえの展示やおやつ塩分クイズでは、子どもたちの楽しそうな笑顔が見られました。

参加された方からは「塩分を多くとっていることがわかった」「普段からだしをとって減塩したい」などの感想をいただきました。

是非一度、皆様のご家庭でも、塩エコで食生活を見直してみませんか。



(ちょうど良い塩加減はどれかな。)



(熱心にメモをとる聴講者)



(おやつ(おやつ)の塩分はどれくらいかな。)



(取組紹介するコメンテーター)

住民向け在宅療養フォーラム

～おうちっていいよね～

(気仙沼保健福祉事務所)

気仙沼地区地域医療委員会では12月19日に住民の皆様を対象とした在宅療養に関するフォーラムを開催しました。

今回は『リハビリテーション』をキーワードに、在宅に戻るための病院での取組や、在宅で受けられる通所・訪問リハビリテーションの内容、そしてそのサービスを調整するケアマネジャーの取組紹介がありました。

さらに、車イスやオムツなどの介護用品(福祉用具)の展示もあり、参加された方々には、たとえ病気や障害があっても、病院に入院するだけでなく、住み慣れた「我が家」で暮らしていくためにどんな仕組みがあるのかについて、元気なうちから学ぶ機会になりました。

ホヤ養殖の採苗が行われました

(水産技術総合センター気仙沼水産試験場)

宮城県は、ホヤ(学術上は「マボヤ」)の生産量が国内生産の約8割を占める日本一の産地です。管内でも観光キャラクターのモチーフになるほど養殖が盛んです。

ホヤ養殖は、採苗から出荷まで3年以上かかります。昨年の春から夏には震災の年に採苗されたホヤが「レギュラーサイズ」の「4年子」として出荷されるようになり、ようやく生産が軌道に乗りました。

気仙沼水産試験場では、ホヤの人工採苗技術指導を通じて、養殖業者が安定して持続的にホヤを生産できるよう支援しています。

例年12月中旬から、親ホヤを水槽に入れて人工的に産卵させ、幼生(ホヤの赤ちゃん)を採苗器(シュロ縄)に付着させるのが一般的な方法です。親ホヤが産卵に適しているかどうかの見極めや、幼生が生ま

れてから採苗器に付着するまでの温度管理に一定の技術を必要とします。管内では採苗技術が定着しつつあり、今シーズンも生産者各自が必要数量を採苗することができました。3年後以降が楽しみです。



(ホヤの幼生(オタマジャクシ状です))



(採苗器(シュロ縄)に付着したホヤ幼生
(付着するときにホヤの形に変態します))

南三陸町在郷地区のねぎ栽培ほ場で現地検討会を開催しました

(本吉農業改良普及センター)

復旧工事完了後、初の作付を行った在郷地区のねぎ栽培ほ場では、栄養分の乏しい復旧農地に合わせた施肥体系を行ったことで、6月の定植後ねぎの生育が順調に進んでいました。

しかし、8月下旬から9月中旬にかけての日照不足や大雨による根ぐされで生育不良株が多発し、残念ながら出荷可能面積が縮小しました。

そこで、生育不良の原因を管内の生産者や関係機関で共有し、今後の改善対策の検討を行うため、

11月20日に現地検討会を開催しました。

当センターと古川農業試験場が連携し、土壌断面調査や現場透水性調査を行ったところ、心土部分が硬いために土壌の透水係数がきわめて低いことが分かりました。もともと粘土質で固結しやすい土質のうえ、有機物も少ないため、排水不良による湿害が発生しやすい条件だったと考えられます。生育不良の原因と、今後必要とされる心土破碎等の土壌改良対策について、参加者で共通認識を持つことができました。

今後、在郷地区を含む管内復旧農地のねぎ生産を安定化するため、関係機関の連携のもと、対策の実施を検討していきます。



(現地検討会の様子)

地域食材活用講習会を開催しました

(本吉農業改良普及センター)

12月2日、南三陸町入谷公民館で、当センター主催による地域食材活用講習会を開催し、近隣の登米市・気仙沼市本吉町からも地域食材に関心のある方が11名集まりました。

講師には、南三陸町で味噌や漬物づくりをしている「ぬくもり工房」のお母さん方をお迎えし、お母さん方の畑で生産されたこんにゃく芋と生姜を使い、生芋からのこんにゃく作りと生姜の混ぜご飯の素作りを行いました。

参加者全員こんにゃく作りは初めてで、興味津々に調理に挑んでいました。調理の途中、参加者から「生のこんにゃく芋を見たい」という声が上がリ、急遽自宅からこんにゃく芋そのものを取ってくるという場面もありました。

実食では、参加者はみな口をそろえて「美味しい！」「優しい味で心も体も温まる」「うちでも作ってみたい」と話し、こんにやくも生姜ご飯もおかわりしていました。

当センターでは、今後も農山漁村ならではの特性を活かした加工品づくりを支援していきます。



(講習会の様子)



(生芋から作ったこんにやくと生姜の混ぜご飯)

高校生向けみやぎ農業未来塾を開催しました！

(本吉農業改良普及センター)

12月2日、本吉響高校農業クラブ3年生20名を対象として、本吉地区みやぎ農業未来塾を開催しました。目的は地域農業の現場を高校生に見てもらうことで農業への関心を高め、最終的に就農者につなげることです。

まず、本吉響高校卒業生であるいちご生産者のほ場を視察し、生産者がいちご栽培の概要や新技術などを説明しました。次に、意見交換会を開催し、当センターから地域農業の現状や4Hクラブについて説明しました。

生徒からも「地域の主要品目は何か」、「震災後は農業産出額が減少しているが、これから増加する見込みはあるか」など、様々な質問が出され、活発な意見交換ができました。

当センターでは、今後も定期的な視察研修などを通じ、地域の高校生へ情報提供する機会を設けていく予定です。



(現地視察の様子)



(意見交換会の様子)

平成27年度集落営農経営セミナー ～気仙沼・南三陸地域農業経営セミナー～ を開催しました

(本吉農業改良普及センター)

1月8日、南三陸町(JA 南三陸本店)を会場として、当センター及び県担い手育成総合支援協議会共催により実施しました。

当センターでは気仙沼・南三陸地区ほ場整備工区内で営農組合の組織化を支援しており、今回のセミ

ナーは営農再開して間もない組合や、組織活動に不慣れな組合が、会計処理、決算等の実務を修得し、今後とも安定した組織運営が図られ、地域農業の主体(担い手)として組織展開出来ることを目的として開催したものです。

セミナーには、生産組合関係、気仙沼市、南三陸町、JA南三陸及び関係機関から約 40 人の参加がありました。

講師に、税理士法人スクラムマネジメントの三井信一税理士をお招きし、「生産組織の経理」と題して、組合の会計処理、決算方法だけではなく、任意組織の定義・性格、任意組織の設立要件や適正な損益分配の方法、経営発展のための法人化の必要性等について解説をいただきました。

参加した組合には、組織としての成熟を目指す上で、参考になったと思われま

す。今後とも農作物の生産技術修得はもとより、組織経営安定・発展に向け、関係機関の連携のもと支援していきます。



(セミナーの様子)

ガンカモ類生息数調査の結果

(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

1月 14 日に今年度2回目のガンカモ類生息調査を実施しました。この調査は、昭和 44 年から毎年 11 月、1月、3月に行っており、1月は最も多くの飛来が観測される渡来最盛期の調査です。

当日は、県自然保護員6名と当部職員2名の計8名で、お伊勢浜や津谷川など管内の 31 調査地で調査を行ったところ、カルガモやオオハクチョウ、国指

定天然記念物であるコクガンなど約 1600 羽の飛来が確認されました。今年度は全体の羽数は昨年よりも少なくなりましたが、コクガンの飛来が増え、気仙沼市のお伊勢浜や南三陸町の平磯でもコクガンが確認されました。コクガン以外にも気仙沼市の大川や菖蒲沢ダム、津谷川、南三陸町の伊里前では、比較的多くのガンカモ類が確認されており、マガモやオオハクチョウを観察することができます。

暖冬の影響からか県内全体の羽数も昨年より減少していますが、管内の減少は暖冬以外にも津波による被害や復旧工事による生息環境の悪化が考えられます。復興が進むにつれ鳥類の生息環境が回復し、渡り鳥の飛来が増加していくことが期待されます。

今年度3回目のガンカモ類生息調査は3月 10 日に行われます。



(飛来したコクガンの群れ)

「平成 28 年度稲作推進基本方針」を決定しました

(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

12 月 22 日、第 2 回米づくり推進気仙沼地方本部会議を開催し、平成 27 年産水稻の作柄概況及び平成 28 年度稲作の取組みについて関係機関による情報共有と意見交換を行いました。

気仙沼・本吉地方を含む県東部地域の作況指数は 103(やや良)であり、平年を上回りましたが、品質については 1 等米比率が 68.9%(H26 年同期 85.8%)と昨年を下回る結果であり、主な要因は充実度不足によるものでした。

これらのことを踏まえ、平成 28 年度稲作推進基本

方針では、(1)「南三陸米」の生産安定と品質向上、(2)客土による復旧農地の適切な肥培管理、(3)省力・低コスト稲作の推進、(4)基本に徹した適正な病害虫防除の実施と防除体制づくりの4つの重点推進事項を掲げて取り組むこととしました。

今後も、米生産農家の経営安定、南三陸米の安定生産を目指し、関係機関が連携し課題解決に取り組めます。



(米づくり推進気仙沼地方本部会議)

「2015 カツオフォーラム in 気仙沼」が 開催されました

(気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

1月30日に気仙沼市内のホテルを会場として、カツオフォーラム実行委員会と日本カツオ学会が主催する「2015 カツオフォーラム in 気仙沼」が開催され、地元を始め、宮崎県や高知県のカツオ漁業関係者約200名が参加しました。

オープニングで唐桑鮪立の大漁唄い込みが行われ、その後、東北大学の川島秀一教授から三陸地方のカツオ漁文化について、水産庁神谷崇参事官から中西部太平洋まぐろ類委員会におけるカツオをめぐる議論について、基調講演がありました。

パネルディスカッションでは「危機的なカツオをめぐる諸情勢」をテーマに意見を交わし、議論した内容をカツオ資源保全と安定操業のための体制整備、カツオ漁業経営の維持と乗組員確保対策及びカツオ関連産業と水産都市の維持の3点にまとめ、国や政府に要望する「気仙沼宣言」を採択しました。



(唐桑鮪立の大漁唄い込み)



(パネルディスカッションの様子)

さけ稚魚の放流が始まりました

(気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

気仙沼大川さけふ化場で2月10日に管内のふ化場で最初の放流が行われました。放流された稚魚は、10月上旬に採卵し、平均体重0.7~0.9gに成長したもので、1,352千尾が放流されました。

今年度は、回帰するさけのほとんどが震災年あるいは震災翌年に放流した稚魚で、放流数が震災前(平成21年度)の約6割から8割と少なかったこともあり、さけの河川捕獲数が33,664尾と前年比62%と減少しております。

このため、管内の各ふ化場では種卵の確保に努め、特に、小泉川ふ化場や南三陸町のふ化場(小森、水尻)では、関係者の努力により、海産親魚の使用や他のふ化場間の種卵移殖調整等を行った結果、計画した収容卵数をほぼ確保することができました。

今後は、管内の各ふ化場では4月末から5月始め頃まで、放流が行われる予定となっています。



(放流したさけ稚魚)



(さけ稚魚放流の様子)

第 20 回気仙沼合同庁舎臨時直売所を 設置、抽選会を開催しました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

気仙沼・南三陸地域の地場製品の消費拡大を図るため、平成 26 年 7 月から毎月第 1 金曜日を「地場産品生産者応援の日」とし、気仙沼合同庁舎内に地場産品の臨時直売所を設置しています。

毎月、管内の直売所や道の駅、生産者の方に出展して頂き、平成 28 年 2 月で、第 20 回目の開催となりました。

当日は、気仙沼市物産振興協会の方が、水産加工品やお菓子を販売したほか、県の PR キャラクター「むすび丸」が登場し、会場を盛り上げました。

すっかり職員や近隣住民のおなじみとなった臨時直売所は、開店前からお客さんが訪れ、開店と同時にいくつも商品を購入する姿が見受けられました。

また、今回は第 20 回を記念して、商品購入者に、

JA 南三陸管内で収穫された一等米ひとめぼれであるブランド米「南三陸米」が当たる抽選会も行われました。

今後も、県当地域の特産品の PR、地産地消の推進に取り組めます。



(抽選で当たりが出た方へ
むすび丸から南三陸米プレゼント！)

岩手県沿岸広域振興局との意見交換会を 開催しました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

11 月 24 日に岩手県沿岸広域振興局(大船渡地区)との意見交換会を、大船渡市内において開催しました。

この意見交換会は、宮城・岩手の県境に接し、管内の地理的状況や産業形態が類似する沿岸広域振興局と当事務所が、共通する課題等について情報交換や意見交換を行い、課題解決の一助とすることを目的に平成 14 年度から開催しているもので、震災により中断していましたが、昨年度から再開されました。

今回は、各部門ごとのテーマである広域観光振興や被災農地・木質バイオマス、秋サケ来遊・種卵確保状況について、活発な意見交換が行われました。また、この意見交換に先立ち、けせんプレカット協同組合高田工場や陸前高田市小友町復旧水田、大船渡市魚市場を視察し、大船渡管内の復興状況について理解を深めました。

次回は、気仙沼管内において意見交換会を開催することとし、今後も沿岸広域振興局と当事務所が連携を図っていくことにより、さらなる発展につなげるこ

とを確認しました。



(けせんプレカット協同組合高田工場視察)